



昨年の屯田地区文化祭で演奏するTONDENハンドベル・ハーモニーの皆さん

平成9年の新琴似・篠路子ども歌舞伎合同公演で、殿中刃傷の場を演じる篠路中央保育園の子どもたち



今年のYOSAKOIソーラン祭り・新琴似会場で踊る新琴似天舞龍神の皆さん

平成8年の新琴似・篠路子ども歌舞伎合同公演で、白浪五人男を演じる新琴似歌舞伎伝承会の皆さん

北区文化芸能フェスタ 〜歌舞伎・地域芸能合同公演〜

私たちが住む北区は、市内でも早くに開拓の鋤が入り、歴史的に貴重な建物や伝統文化が数多く残っています。地域に息づいている文化や芸能を、もっと区民に知ってもらいたい。そんな願いを込めて、北区では区制三十周年記念事業「北区文化芸能フェスタ〜歌舞伎・地域芸能合同公演〜」を開催します。そこで今回は、その舞台を華やかに彩る出演団体の皆さんを紹介しましょう。

新琴似・篠路歌舞伎

明治三十年代から大正期にかけて、新琴似地区や篠路地区で盛んに行われていた農村歌舞伎。この歌舞伎は、娯楽の多様化などによって、昭和初期には姿を消してしまいました。

それから、長い歳月が流れた昭和六十年。篠路地区では、歌舞伎を復活させようと、地域の人たちが篠路歌舞伎保存会を発足させました。翌年には、地域の保育園児による子ども歌舞伎が演じられ、北区

の歌舞伎復活への歩みが始まりました。また、平成五年には、新琴似地区でも町内会を中心とした歌舞伎伝承会が設立され、貴重な伝統文化が現在に伝えられています。

今回の公演で、子ども歌舞伎を演じるのは篠路中央保育園の年長組の園児たち。すでに四月から、けいこを始めています。「小さな子どもたちの集中力を持続させることはとても難しいです。そのため、けいこも最初は十五分ぐらいから始めていくんです。本番に向けてまだまだけいこが必



▲園長の林さん

要です」と、園長の林さんには話します。

一方、新琴似歌舞伎伝承会の皆さんも、公演に向けたけいこに熱心に取り組んでいます。「一年半ぶりの公演です。役者自身も楽しみにしており、練習にも熱が入ります」と話す伝承会事務局長の宮崎さんからは、強い意気込みが